



リージョナル・イノベーション
センター／先進健康科学研究科
(化粧品科学講座)
徳留 嘉寛 特任教授

佐賀県のコスメ産業を 支える化粧品科学講座の研究



化粧品科学講座の研究



徳留嘉寛特任准教授 (※1)



徳留教授の研究成果の関連製品

化粧品科学講座では、化粧品や化粧品有効成分（生理活性成分）が皮膚中に入った際、皮膚中で起こっている現象を生物学的・分子生物学的な手法で明らかにすることを目的に研究を行っています。また、化粧品開発に関係する基礎的な製剤学的検討や角層の構造解析等も研究対象です。

皮膚構造研究と化粧品開発

皮膚は外部からの異物の侵入や体内からの水分蒸散を防ぐことからヒトが地上で生きる上で極めて重要な組織（臓器）とされています。化粧品等を皮膚の外から適用しても、角層バリアによって十分量を皮膚内に浸透させることは困難とされます。そこで本講座では、新規化粧品製剤の

提案や経皮吸収を促進する技術・素材の開発を行っています。さらに、皮膚の老化や生体反応における細胞の構造変化、生理活性物質の皮膚や皮膚細胞に対する影響・効果を検討し、スキンケア材や化粧品、その他の製品開発に役立てることを目指した研究を進めています。

皮膚バリア機能における物質の影響評価

本講座の研究の一つに皮膚のバリア機能に関する物質の影響評価があります。皮膚バリア機能は角層細胞間脂質が重要で、中でもセラミドは重要な構成成分であることは多くの研究者が報告しています。現在、表皮中にあるセラミドの前駆物質「スフィンゴミエリン (※1)」の皮膚バリア機能に対する影響に着目し、本物質の皮膚バリア機能に対する役割の一端を明らかにすることを目的に 研究を行っています。

本研究の成果はアトピー性皮膚炎や老人性乾皮症の根治療法への手がかりとなる可能性はもちろん、セラミドやバリア機能の低い皮膚に対する化粧品開発にも、本研究成果が活かされると考えています。

(※1)

動物界に広く分布する細胞膜リン酸脂質の一種で、神経細胞のミエリン鞘の構成成分。

共同研究
講座の情報は
こちら



佐賀県コス
メティック構
想の情報は
こちら

